

 いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

木々たちの冬支度

山々が白くなり始めるこのごろ。私たちは庭の冬囲いを始めます。しかし木々はそんな慌ただしさを横目に自ら冬に備えます。この時期だけに現れる遺伝子や酵素によって、体内の糖やアミノ酸を増やして凍結しない体質を作ります。同時に細胞の外に出された水分が凍っても内部はあるレベルまでは守られます。しかし急激に冷えるとそのメカニズムが働かず、悲劇に襲われることもあるので、新参の庭木にははらはらします。(かわはら)

多肉植物について

日照時間が短くなり、霜も降りる寒い時期になりました。春秋冬に生育する品種は遮光率 40% ぐらいで室内管理にしましょう。風通しも良いのがベスト環境です。この時期から用土が芯まで乾いたら水をタップリと与え、受け皿などに水がたまらぬ様に注意し、植え替え・株分け・さし芽・種蒔きなどで作業も楽しめます。エケベリアなどは株わけの適期、風通しの良いところで日によく当てて寒暖の差を感じさせると美しく紅葉します。肥料は不要。(たかはし)

もうすぐ雪が舞い降りてきますが

畑や花壇のお掃除は終わりましたか。畑や花壇に枯れた作物や花がそのままになっているところが多く見受けられます。枯れた植物をそのまま雪の下にすると、来春には分解されて殆どはなくなりませんが、植物についている病原菌や害虫の卵は土中に入り冬を越し、来春早く咲く草花や苗物が病気になったり、虫の卵が幼虫となり、植物の根を食べたりしますので、雪降る前に宿根草を除きすべてかかれた物は取り除き廃棄しましょう。埋め込むのやめましょう。畑のお掃除が終わったら、雪降る前に畑の「天地返し」と言って、畑を深く(30 cm以上)起こしましょう。土を起こして寒気にあてることにより病害虫の防除効果があります。是非実施してみましょ！起こす時、有機石灰をすきこみましょう。有機石灰は即効性がなく、ひと冬置くと春には効果が出てきますし、カルシウム等が含まれていて畑には有効です。

(ながやす)

シモバシラ

シソ科の多年草に「シモバシラ」という植物があります。よく冷え込んだ朝、枯れたこの草の根元を見ると、茎から「霜柱」のような氷が付きます。冬枯れした茎が地中の水分を吸い上げ、根元に氷柱がつくことからこの名がつけました。別名 雪寄草(ユキヨセソウ)。秋に片側だけに白い穂状の花がたくさん咲く山野草で関東以西の野草ですが、北海道でも越冬可能です。株元にシモバシラができる現象ですが、積雪まえの初霜の時にできる事が多いようですが毎年みられるとは限りません。まれに他のシソ科の植物でもできることがあるそうです。(いとう)



今月の便り

「今月の便り」次ページへつづく⇒

冬がくる前に

みなさん秋の庭仕事は楽しく進んでいますか？夏に楽しんだ一年草を引っっこ抜いたり、宿根草を地際で切ったり、木々の冬囲いをしたり。寒さと闘いながら「ここまでやっておかなければ」と、追い立てられた気持ちになってはいませんか？…どうぞ気楽に。もし体力的にきつければ、最低限の事だけやる方向で。それから増やしたい宿根草の種が取れたら、親株のそばの空いているところを少し耕してからバラバラと撒いて土を適度にかけておきましょう。うまくいけば、雪の下で寝かせておくだけで種は春に発芽適温を感じて発芽してきます。自然に任せることで作業は減らせるし、芽を見つけた時の喜びも味わえます。どうぞ春先のお楽しみを土の中に仕込んで見てください。（きのした）



バラ園

積雪との勝負！

バラの冬囲いが佳境をむかえます。季節外れで予報外れの大雪が降ると、なかなか思うように作業が進みません。しばらく空とのにらめっこが続きそうです。



今月の開花情報



室内公園 色彩館

ユーチャリス（アマゾンユリ）

Eucharis grandiflora ヒガンバナ科アマゾンユリ属

うつむいて咲く姿はなんとも可憐。純白の花に、蝶の鱗粉のような美しい純白の花粉をたくわえています。可愛すぎて、色彩館のオンシツコナジラミさんもこの子のことが大好きなのが玉にキズです（泣）。葉が卵型で似ているため『ギボウシスイセン』という別名もありますが、ユリやスイセンの仲間ではありません。切り花でブライダルによく使用されるそうです。

【知恵袋】日本人と野菜

野菜の種類は世界全体で 200 ~ 300 あるが、きわめて局地的に利用されるものや特殊なものを除くとそれほど多くはない。日本では 1 年を通じて約 150 種の野菜が食べられている。これは、ヨーロッパでもっとも野菜の種類が多いフランスの約 100 種、ドイツの約 80 種、さらにアメリカの約 95 種に比べると、飛び抜けて多い。日本では日本固有の野生植物から野菜化されたものは、フキ、ミョウガ、ウド、ワサビなど、わずかの種類しかないが、農業が始まった弥生（やよい）時代以来、中国大陸や東南アジア各地から、野菜をいろいろ導入して種類を増やした。

（日本百科大辞典の解説より）

野菜とは？食用にあてる目的で栽培する植物。ただし主食にあてる穀物は除きます。利用される部分によって葉菜・根菜・果菜に分けることができます。

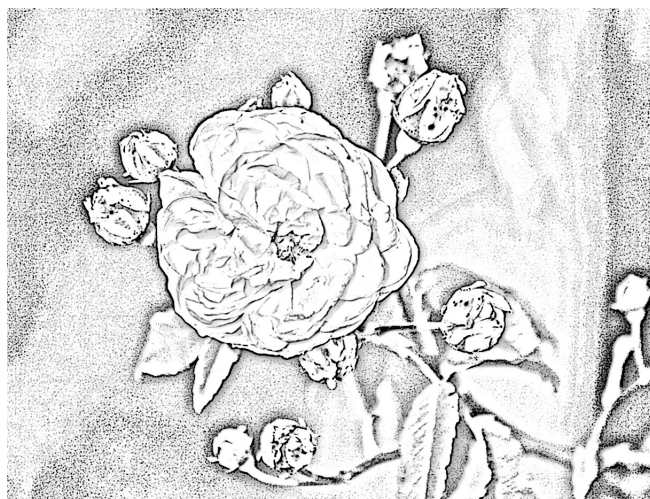
チャット
いっぷく



ひとつき ひとバラ



文：田中 伸枝
(いわみざわ公園バラ園)



第五十五回

ノアゼットローズ

エメ ヴィベル

Aimée Vibert

作出国：フランス

作出者：Vibert

作出年：1828年

ハーディネスゾーン：Z6

返り咲き性

交配：Champneys' Pink Cluster × Rosa sempervirens pleno

エメ ヴィベルは、4cm 程の小中輪房咲き・純白のノアゼットローズで、別名 Nivea (雪のように白という意味)とも云います。蕾は紅が差し、枝はしっかりとしてトゲが少なく、赤味を帯びた色が美しく印象的です。秋の印象が強く、なぜか一番花の時に咲いていた記憶がありません。名前は作出者の娘の名前に由来します。つるバラ扱いになりますが、当園ではそれほど大きくなりず 70～80cm ほどの自立した自然樹形で、オールドローズの小径に植栽しています。寒さに強くないとよくいわれるノアゼットですが、当園で冬は結構厳しい環境に置かれていますので、ご家庭での冬越しについては大きな問題はないかと思えます。ライトピンクの Champneys' Pink Cluster と、白花の Rosa sempervirens pleno を交配親に持っています。Champneys' ～は、ムスク香を持つ R. moschata と、モダンローズに四季咲き性をもたらしたチャイナ系の Parsons' Pink China (Old Blush) からなる最初のノアゼットローズです。ちなみに当園でも栽培しているブラッシュノアゼットも Champneys' ～の実生でできた品種です。

作出者の Vibert 氏は、元々ナポレオン軍の兵士でした。半島戦争で負傷しリタイア

したあと、バラを蒐集しはじめました。彼のバラへの興味の発端は、ジョゼフィーヌのお抱え園芸家の A・デュポンの存在が大きかったようです。1812年にパリ郊外で果樹とバラの栽培を始め、1815年に友人である Descemet 氏の事業を連合軍の侵略から救うために買収し、幾千株ものバラ苗と交配記録を手に入れ、彼のバラ栽培はさらに発展しました。またフランス園芸学会の創始者のひとりでもあり、この時代のフランスは本当に園芸に熱狂していたことがうかがえます。あと特筆しておきたいのは、3度も農場を移転していることです。うち2度の原因は、コフキコガネの幼虫による被害でした。現代であれば良い農薬があるけど昔は当然無農薬でしょうし、とても苦労したと思います。当園も無農薬栽培ですので大変さは本当にお察しいたします…という感じです。彼は死ぬ間際に『私を苦しめた2つの深い憎しみ…私のアイドルナポレオンを倒したイギリス人と、私のバラを破壊した白い虫だ。』と言い遺したそうです。

そんな Vibert 氏の弛まぬ努力の甲斐あって、当園ではオールドローズの小径で、約20品種ほどの作出品種を見ることが出来ます。初夏にバラを見るときには、Vibert 氏のこと少し思い出してみてくださいね。

クリスマス オカリサコンサード

12/9(日) 14:00 開演

場所：いわみざわ公園バラ園内
室内公園「色彩館」 大温室

入園料：高校生以上 100円
小中学生 50円

※幼児無料

※障がい者手帳ご提示で

ご本人様と付添人様1名無料

バラ園でとれた
ローズヒップを使った

てづくり

リース

販売しています♪



今月の市民園芸講座のご案内

これは面白い!



- 11月11日(日) 13:00~15:00 多肉植物の寄せ植えをしよう
料金：2,000円(容器込) 定員：20名
講師：椿豊さん Green Art 百々屋
- 12月2日(日) 13:00~15:00
ローズヒップでクリスマスリースをつくろう
料金：1,000円 定員：10名 講師：バラ園スタッフ
- 12月8日(土) 13:00~15:00 体験してみよう! 樹木の香り
料金：無料 定員：40名
講師：脇田陽一さん 道立総合研究機構 林業試験場
- 12月22日(土) 13:00~15:00 お正月のアレンジメント
料金：3,000円(容器込) 定員：40名
講師：秋元千秋さん フラワーデザイナー